



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.11.4 No. 4872

11・8へ

根こそぎ結集の達成へ!

あと5日! 全支部は全力投球を

11/8大結集をバネに、28名解雇撤回の
地平から、一〇四七名奪還に攻めのぼろう

われわれはこの一年間、公労法解雇の全面撤回(九七年三月)をかちとった大きな地平にたち、正念場の国鉄闘争勝利にむけてJR総連と対決し、「恒常的スト体制」を堅持しながら懸命にたたかい、団結をうち固めてきた。

なによりもこうした闘いを新しい世代の動労千葉への「脱皮」のための試練として積極的にとらえかえし皆さんで力を合わせてきた。これらの全成果を土台に、「十一・八」動労千葉

五・二八反動判決は、

全労働者に怒りの火をつけた

政府支配階級は、清算事業団闘争が十一年間にわたって不屈にたたかい続けられていることを恐れ、最後の手段として五・二八反動判決を下してきた。

だが、この暴挙は、われわれ争議団と国労闘争団の怒りの火に油を注いだ。動労千葉はただちに弾劾にたちあがり、五・二八を怒りの日、反撃への転機として位置づけ、あらためて労働運動の原点にたち還り闘うことを宣言した。あれから半年、国労本部一部指導部の動揺をのりこえ、新たな決意を固めている闘争団の仲間、そして全国の労働者

の根こそぎ結集と全国五千名の結集を達成しよう。それをバネに来年(九九年)を一〇四七名(動労千葉十二名)奪還、清算事業団闘争勝利の年としよう。敵は大失業時代の中で国鉄闘争の継続と団結の強化、連帯の拡大を死ぬほど恐れている。

勝利の道は、敵の恐れていることを強め、攻めのぼることだ。「十一・八」の大結集は当局、革マルへの新たな「戦闘宣言」である。

労働者の危機感と怒りの広がり、こうした怒りと声が共鳴し、「たたかう労働組合の全国ネットワークづくり」へと発展したのである。「十一・八」の成功



か否かに九九年の、否、二〇世紀初頭の労働者の行く末が決定するといつて過言ではないだろう。

闘って活路を開こう!

国労札幌闘争団の長尾信一氏は、9・29組対法反対集会で「分割・民営化の過程で自ら命を絶った二〇〇名余の仲間。その仲間に応えて初めて国労闘争がある。全国二六闘争団は、多少の温度差はあっても闘っている。

く意志は同じ。いかなる弾圧にも屈しない、迷った時は原点に、闘って活路をひらく、全力で闘いを進めていく」(八・二九全国集会「報告集」より)と決意もかたく勝利への道筋を明らかにした。

吹き荒れる「虐殺リスト」、他方で血税(政党助成金)使い海外旅行・・・ 闘いの時はいま、怒りをひとつに!

週刊誌で「虐殺リスト」などという見出しが踊っている。団結し、闘わなければ本当に生きていけない時代の到来である。昨年度の統計では保険料が払えず、国民健康保険証を取り上げられた世帯が二万世帯、四五万人にのぼっている。保険料を払えない者は医者にも行けず、野たれ死にしろというのだ。

防衛庁の組織ぐるみの汚職にみられる軍産癒着と腐敗は極限に達している。まさに資本主義の終わりの始まりである。

その一方では、自民党の中島洋次郎議員が政党助成金(国民の血税)を海外旅行や外車の購入、自宅マンションの維持費に使ったとして逮捕されている。

労働者の怒りがひとつになり、行動すれば活路は開ける。韓国を始め、アジアで、アメリカ、ヨーロッパ、全世界で始まっている労働者の新たな闘いの胎動と前進に続こう。

「十一・八」の大成功は、情勢を決定的に変える「決戦」である。

全支部は残り五日間、全力投入で根こそぎ結集を実現しよう。

11・8全国労働者総決起集会

- 11月8日(日) 正午
- 東京・日比谷野外音楽堂
- 第一陣 千葉駅7番線 10時34分
- 第二陣 千葉駅8番線 12時26分

